

雑誌論文の投稿ルール

◆ 雑誌論文の重要性

雑誌論文 — 是非、書いてほしい

- 1) 研究者の目に触れる機会
: 雑誌論文 > 修士論文・博士論文・学会発表
- 2) 博士論文の提出資格
: 審査のある雑誌に採択 (accept) された論文 1 本
(連名論文、印刷中も可)
- 3) 学術振興会特別研究員への申請に必要
- 4) 就職に必要

◆ 目標

- * 発表できるデータ — 必ず雑誌論文にする
- * 修士論文のデータ — 可及的速やかに雑誌論文にする
- * 博士論文のデータ — ”
- * ” 研究史 — 展望論文にすることを試みる

◆ 雑誌論文の難しさ

- (雑誌論文の審査) — 修論・博論より厳しい
(形式・分量の制約)
- ∴ 修論・博論の執筆とは別の心構えが必要

◆ 最初の雑誌論文

- (× 英語論文
○ 日本語論文)
- ∴ 英語論文 — 負担が大きすぎる
 - ∴ 英語論文の執筆に必要な条件

- = 雑誌論文執筆のノウハウ
 - + 英語論文の書式についての知識
 - + 執筆・交渉のための英語力

ただし、英語力に自信のある院生 — 例外

◆ 連名

原則 = 指導教官と連名

∴ その研究に貢献した研究者 — 連名が原則

指導教官 — 研究機材、謝金、助言、論文執筆の支援などで貢献

例外 = 指導教官が連名を承認しなかった論文

◆ アウトライン

まず、2種類のアウトラインを提出 (構成
内容)
(いきなり本文を提出 → × 添削)

* 構成： 論文の論理的な構成をレジюме形式で記した文書

- 研究の目的
- 方法のロジック
- 結果の概要
- 結果の解釈

* 内容： 論文に含まれるすべての内容をレジюме形式で記した文書

- 論文に含まれるすべての見出しとその内容
- 引用する文献 (引用文献欄は不要)
- 被験者
- 装置・材料
- 手続き
- 結果およびその図表
- 統計分析の数値
- 結果の解釈
- 他の解釈の検討
- etc.

◆ 手順

構成・内容の提出 → 指導教官との相談
→ (構成・内容の修正 → 指導教官との相談)
→ 本文の提出 → 指導教官との相談
→ (本文の修正 → 指導教官との相談)
→ 本文の投稿
→ 審査意見の受領 → 指導教官との相談 → 本文の修正 → 再投稿

◆ 心構え

(○ まず、自分で全力を尽くす
× まず、ざっと書いて、指導教官に完成させる

∴ 全力を尽くさない

→ 1) 雑誌論文を執筆するためのノウハウが身につかない
2) 指導教官が過負荷になる

◆ 英語論文

(自信のある研究成果 — 是非、英語で発表してほしい
英語論文を書くノウハウ — 是非、体得してほしい

よくある誤解(1)

: 「博士課程に進学 → 自動的に英語論文が書けるようになる」

実際: 英語論文 — (英作文能力の鍛錬) が不可欠
(執筆時の多大な努力)

よくある誤解(2)

: 「国際誌には無数の論文が掲載されている

→ 自分の論文も投稿すれば掲載される」

実際: 多くの欧米の研究者 — しばしば論文が不採択

多くの日本人教授 — 一度も英語論文が採択されない

基本原則: 英語論文 — 2篇目以降 (英語力に自信がある場合は例外)

手順

英語論文執筆を指導教官に打診

→ 構成・内容（日本語）の提出

（Cf. 上記「手順」の項）

→ 本文（英語）の提出

→ { 英語力 — 充分 → 投稿
 " — 不充分

→ { 日本語論文への転換
 or
 英作文の修練

→ 英語論文5篇の翻訳

→ 英語力の再判定

◆ 剽窃（plagiarism）の注意

少なからぬ日本人教授

: 「英語論文の表現を切り貼りして英語論文を書け」と指導

→ 剽窃の危険性

例（三宅晶氏による）

日本人院生の投稿論文

: "Random generation, in which participants are asked to continuously generate a series of letters or numbers in as random an order as possible, is a useful tool for approaching the functions of the central executive (e.g., Baddeley, 1996a), because it requires actively monitoring candidate responses and inhibiting well-learned sequences, such as A-B-C-D- or 1-2-3-4."

Hegarty, Shah, & Miyake (2000)

: "The secondary task most widely used in this context is oral random generation (Baddeley, 1966), which requires participants to continuously generate a series of numbers or letters in as random an order as possible. This task is considered to tap the central executive because it requires actively monitoring candidate responses and

suppressing responses that would lead to well learned sequences, such as 1-2-3-4 or a-b-c-d (Baddeley, 1996).”

基本方針

- 定型的な表現の使用(例：“in as random an order as possible”)
- × 引用・実例などまで含んだ表現の借用

以上

2007. 5. 13